

## スマイルタイムズ

平成19(2007)年12月20日(木)発行

発行者 小浜市多田2-2 中山クリニック 院長 中山茂樹

http://www.nakayama-clinic.jp

## 今年の漢字は「充」

総務 松井 正

過日、漢字を扱う某協会が今年の(世相を最もよく表す)漢字を、投票の多数により「偽」としました。今年一年、製造日付や商品の中身の偽装などが次々と内部告発(?)され、つぶれた会社もあれば6ヶ月も営業停止の会社も現れたからです。豚肉入りとしておけば良かったのに牛肉オンリーの表示や、賞味期限としておけばよかったのに、本日謹製とかしたものだから、その欺瞞性があばかれたのでした。しかし、内部においてその欺瞞に耐えかねた良心や正義がまだ生きていたのか、と思うと嬉しいし、また、別に病気はおろか腹痛になる人も居なかったのだし、視点を変えて、この際、人間の目や鼻や舌の感覚の大切さをマスコミはもっと触れれば良かったのにと残念に思ったことでした。

さて、私の「今年の漢字」はと考えると、まあ「充」かな、と言ったところです。充足、充分、充実、そして充電できたかな、というような気がしたからです。

今年は三つの忘れられない思い出ができました。

一つは当紙133号(本年4月発行)に書きましたが、9日間のトルコ旅行。今もって世界遺産などの沢山の風景が目には焼き付いていて、思い出すたび心がぼかぼかと暖まります。心の「充足」です。

二つは、昭和23年、小浜小学校を卒業した同窓生(そのころは40人×4学級ありました)が42歳の厄年を記念して昭和52年「二三会(にいさんかい)」を結成したけれど、毎年市内に限った会合30回を終えたので一旦解散しました。理由はいわば制度疲労や仲間の身体上の故障が出てきたからです。新たな会には県内外の42人の仲間が参加してくれました。その解散から新結成までの仕事の代表を務めました。そして「新二三会」の第一回総会兼親睦会を10月に芦原温泉で行いました。まずは私が健康で人の世話ができるのが大いに有り難いことでした。これには「充分」私の時間をとりましたが、新発足してやれやれでした。

三つ目は山本和夫先生の生誕100年記念事業をしたことです。先生は私たち「若狭文学」の仲間とよく呑み、よく語って下さいました。地元では余り知る人が少ないようですが、詩人であり児童文学者としては地元に出る人はいません。先生の作られた校歌に限って挙げると、県外では静岡県の御前崎市立浜岡中、新潟県の佐渡市立高千中、長野県立上水内北部高など。

福井県内の小学校では坂井市の兵庫、越前市の国高、

地元の堅海、内外海、松永、遠敷、口名田、加斗、宮川、野木、瓜生。中学校では勝山市の中部中、地元の第二、上中、本郷。高校では若狭、若狭東などなど。

そこで先生の生誕100年を記念して8月に、地元の小中高の児童、生徒さんに小浜市文化会館に集まって貰い、山本和夫作詞の自校の校歌を歌って頂きました。大盛況でした。別に「山本和夫賞」を贈る「県下小中学生詩のコンクール」を行いました。県のエポックメイキングなことでした。県下から250篇の詩が集まりました。当院の看護師Nさんの小1のお嬢ちゃんがこの最高賞を獲得されました。嬉しいことでした。半年間、係り切りでしたが「充実」した日々でした。だから私の今年の漢字は「充」でした。皆様はいかがですか。

## 検診を受けて下さい 看護助手 松宮 豊美

今まで、大きな病気もした事がなく、見た目も健康そのものって感じで、健康には自信があった方なので、検診を受ける事を不安に思ったことはありませんでした。

○5歳を過ぎてから、同年代の人達が検診でいろいろひっかかった、と聞くようになって、私は大丈夫かしら、と心配になってきました。節目という事もあって町の検診が無料で受けられるというので、この際全部受けようと思って申し込みました。胃ガン、乳ガンの検診は初めてだったのでドキドキでした。バリウムも昔に比べたら随分飲む量も減ったみたいで割と楽に飲みました。(でもおいしいものではなかったです。)乳ガン検診のマングラフィはすごく痛いつて聞いていたけれど、そう聞いていたからか、思っていたより大丈夫でした。

どの検診の結果も返ってくるまでは不安でしたが、結果はどれも異常なしでした。骨密度は20歳の人より丈夫という結果でした。(毎日食べてるヨーグルトのお陰かな。)

まだまだ子供のため、家族のために健康でいなくては…。自分の健康は自分でしか守る事はできません。みなさんも、ぜひ検診を受けて下さい。

《あとがき》

21日、当院託児室にサンタが訪問、わんわん泣く子や喜ぶ子、子供の性格がよくあらわれました。

